

## なる と 鳴門だいこんの栄光のかけに

### 苦土・FTE入り燐硝安加里の肥効

河 見 泰 成

とかく浮動する葉菜類にくらべ

めっきり安定性をました秋冬ものだいこん

戦後、われわれの食卓上はレタス、セルリー、はなやさい或はアスパラガスなどの洋菜類や生食野菜が巾をきかせていて、日本固有の野菜とくに、だいこん、にんじん、ごぼうなどの根菜類の影はだいぶうすくなったようである。

なるほど、だいこんについてみても

作付面積 (ha) では

41年	97,200	44年	86,500
42年	91,200	45年	83,300
43年	90,860		

収穫量 (トン) も

41年	3,037,000	44年	2,592,000
42年	2,889,000	45年	2,748,000
43年	3,095,000		

と、年により浮動はあるが、傾向としては減少を示しているが、“最近の野菜価格の変動を品目別にみると、前年にくらべ2倍以上値上りした月数の多いのは、10月から3月にかけてのはくさい、キャベツ、だいこん、たまねぎ等の露地野菜であった。”(46年度農業観測修正見通し)と指摘されているように、根菜類(秋冬もの)の消費は存外に堅調で、都市への人口集中がもたらす“地方需要”が増大しているのが、その主因の一つらしい。だいこんは、一時われわれが考えたほど“斜陽野菜”ではないらしい。

こんなことを考えていたら、或る日“だいこんが斜陽野菜だなんて飛んでもない。斜陽どころか、だいこんと早掘りかんしょだけで、部落あげて、貯蔵庫付きの家屋を新築した“だいこん産地”があるんです。しかも“燐硝安加里”を使ってね。一度そこへ行ってみませんか？年内も20日前なら都合つけます…”と電話がかかってきた。電話の主は、チッソ旭肥料 K. K 四国出張所の保田さんであった。そこで昨年12月12日早朝、東京発の新幹線で西下、宇高連絡線で高松を経てその日の夕方“徳島駅”に着いた。

曾遊の地と云っても、こんでやっと2度目。記憶がうすれているうえ、強い近視の筆者に夜は大の苦が手。運転手に訊(き)かれる度に、町名と旅館名を繰返えすだけだったが、“あっ、お客さんここや、ここや”とい

う運転手のはずんだ声に思わずドアをあけたら、なんと2年前の7月、ところも同じ徳島県の“土柱すいか”を取材にきたとき、当時の担当者堀尾さんとさんざんお世話になった旅館ではないか。

“うちの名、もう忘れておいでかね？あほらし…”玄関で声をかけたら、向うの方がよく覚えていて、おぼさんにたしなめられた。しかし、お蔭でその夜はぐっすりと眠った。

家屋と云い、貯蔵庫と云い

あれほどのものは、そうはないで…。

夜どおし、おどろおどろ…というほどでもないが、かなり吹いていた風も収まって今朝(13日)は、いかにも南国らしい青空がいっぱい。暫らく振りを見る“眉山”(びざん)の緑が美しい徳島市の朝だ。

目的地=鳴門市農業改良普及所には、午後、1時の約束とあって、午前中、県農業改良課と県経済連を訪れた。

県庁はちょうど県議会開会中だったためか、課長も見えず、ひっそりとした室で土壌肥料専技の豊田壯逸さんにお目にかかり、“本論は現地できられるやろうけど、参考までにきいていきなされ”と、“大蔵だいこん”(おおくらだいこん=主品種として“大蔵”を用いているので、鳴門だいこんを現地ではこう呼んでいる。)の特性、微量要素欠乏対策として海岸の砂を客土することと、苦土・FTE入り燐硝安加里604の施用効果や、47年度から“海岸の砂の客土と微量要素”の開明研究が、農林省の助成を得て農業試験場で研究に着手されることになったことなどを伺った。

県庁から、北佐古一番町五番十二号に新築落成した県農協会館内にある徳島県経済連で肥料農薬課の明石紘一さん(課長代理)と技術顧問の佐藤靖臣さんにお目にかかる。

“大蔵だいこんの取材に？それは結構やなあ、是非行っておいで。あつこは、だいこんの集団産地としてメキメキ市価を高からしめとるというだけではなしに、ここ2、3年の間に大部分の生産農家が“早掘りかんしょ”の貯蔵庫と洗滌場付きの立派な家屋に建て替えてしまった。大規模な事業なら、住宅建設計画も最初から組込まれとるかも知らんけど、里浦はこういうのとは全然ちがうとるのですわ。ああいう仕事をやってのけたのはあまり、例がないですやろ。とにかく、家と貯蔵庫と洗滌

場を見るだけでも、じゅうぶん行く値うちがあるよ。河見君…”と佐藤さん。

元農業試験場長がおされる太鼓判の確かさに、期待感でいっぱいになった筆者と保田さんに乗せた自動車は、やがて農協会館を出て、鳴門市撫養町にある鳴門市農業改良普及所へ向った。

### 38年の大暴落にめげなかった

農家の意欲が、今日あるを礎いた。

途中、昼食をはさんでほぼ1時間ちょっと。快晴にめぐまれた南国のドライブは、まるで冬とは思えぬほどのどかである。遠く近くに見える山々の緑、3年振りに見た“四国三郎”(吉野川)の、悠々(ゆうゆう)たる流れは、詩情をゆすって飽かさぬのである。

### 鳴門農業改良普及所正面



徳島市内はとうに後になって、やがて右に左に畑が見えてくる。やがて1時半を少し回った頃、“ここですわ…”と保田さんは云って自動車を停めた。鳴門市農業改良普及所である。

年末を控えて関係の皆さんは、ご多忙と見えて、日程表はぎっしり詰っていて、係長の吉永茂一さんを除いて人影はまばら…。

“これはようこそ、なんのなんの、迷惑なことおまへん。大体きょうのことは前もって予定がついてりましたで…。どうかごゆるりと…”と吉永さん。

“鳴門の大蔵だいこんが産地化したのは、昭和30年頃からで、それ以前は大したことはなく、38年によくやく200haになりましたが、10a当り収量は5トン程度ですから、あまりほめられる態のものではありません。おまけに38年はだいこんの値段が暴落した年でしたが、この

暴落が生産農家の生産意欲に大して影響を与えなんだ。ここに一つの転期があったのやと思うのです。”

“もっとも、暴落が心理的影響を与えなんだというて、これは当然な成行で、当時こは、かんしょと米の生産を主とした経営だったので、作付が少ないだいこん暴落は他産地のような打撃を与えなんだ訳ですわなあ。むしろ一つの救いと云うてもよいかも知れん。それから“早掘りかんしょ”の裏作としての“おそ出しだいこん”の栽培体系に方針を切替え、42年には“指定産地”の指定を受け、現在作付面積は400haと、ひと頃の倍増です。”

何しろ全県で生産面積1,466haというのだから、400haという大蔵だいこんのウェイトは相当のもので、これは45年度の徳島全県のだいこん収穫量61,300トンに対し、里浦、鳴南、大津、鳴門、松茂の5農協管内で18,819トンを出荷した実績に徹しても、鳴門だいこんの位置が判ろうというものだ。

### 栽培上の問題点解決策としての

#### 苦土・FTE入り燐硝安加里604

“鳴門のだいこんの栽培歴と云うたものは、ざっと今申したような経過ですが、次にこの特色について申しますと、①は、だいこんと云うと漬物用と生食用を連想しますが、このんは生食一方、地場消費はもちろんです、大半は京阪神方面へ出荷されとります。②は、さきほど申し上げたように、“早掘りかんしょ”の裏作に“おそ出し大根”を栽培する経営形態をとっていること、③しかも、本来的に吉野川の河口沿いの低湿田に、砂(吉野川の代緒または海岸の砂)を客土した耕地に栽

砂の採掘料も高うなって…  
(普及所の吉永さん)



### <参 考>

#### 鳴門(秋まき)だいこんの栽培管理

- | ① 播種期  | 品 種                      | 播種期    |
|--------|--------------------------|--------|
| 9中～9下  | (新町晩づまり, US)<br>(MS秋づまり) | 12中～1上 |
| 9下～10上 | 大 蔵                      | 12中～3中 |
| 10中    | 寺 尾                      | 3下～4上  |
- ② 畑の準備
- イ. 苦土石灰の施用…pH6前後に中和するため80～150kg(10a)全面に施す。
- ロ. 深耕・天地返し…塩類の集積害をなくし、サメハダ、根ぐさを防ぐため、トラクターで深耕、天地全層によくまぜる。

ハ. 排水整備…根腐れ、岐根の原因である滞水しないよう排水施設を整備する。

ニ. 畦巾・株間…90～100cm×20～25cm×2条(こうすると生育がよく揃う。)

#### ③ 播 種

イ. 種子消毒…ウスブルン1,000倍液に30分間つける。タネバエ予防のためエスセブン粉剤を種子にまぶす。(土壌害虫予防のため土壌殺虫剤エスセブンなどを粉衣するか、播みぞに散粉し、土とよくまぜる。

ロ. 播種量…点播1～1.2ℓ, 条播1.5～2ℓ(多過ぎないこと、点播は1カ所にかためて播く)

ハ. 芽出肥…播みぞに液肥の400倍液(10ℓ当り住友

培していること、④最後に、はくさいやキャベツのような葉菜類は、増産しやすいかわり、安値に見舞われる危険があるのに、最近の砂地園芸の根菜類は市場的に安定傾向を示していること、現にここがそのモデルプラントだと云えるのではないのでしょうか？”

“といて、このよい事づくめの“鳴門だいこん”に、栽培上の問題点がない訳ではない。では、その栽培上の問題点とは何か？この点について吉永さんは次のように語っている。

“近來どうも、横すじとか、鮫肌(さめはだ)とか、主としてマグネシウム・ホウソウ欠乏によると思ほしき障害が出るようになりましてなあ。横すじ云いますのは、そのものズバリで、葉の付根の白いところに横に褐色のすじが出たり、だいこんの表面に鮫肌状の異常が生じます。これができると必ず中に芯ができます。もちろんこれは売物になりませんなあ”

“では、これを解決するのにどないな手があるか。当然考えられるのは施肥対策で、最初に考えられたことは、吉野川ぞいの川砂を客土することで、これも最初のうちこそ良かったのですが、終いにはヘドロまじりのものが入ってくるようになったので、この頃は一般に海岸の砂を採集しとりましてなあ。海岸の砂は粒子が揃うておるうえ、珪酸やらその他いろいろな要素を含んどうるので、時間と採算のバランスがとれれば海岸の砂も引続いて使われましようけど、最近では海岸の環境保全という問題もあってか、採掘料も1m<sup>3</sup>当り700円から1,000円となってきますとなあ、農家もちよっと容易ではありませんわなあ”

そこで次に考えられるのが、化学資材＝肥料による対策で、これまでの指定銘柄である“燐硝安加里604”に、苦土、FTE入りの“燐硝安加里604”(N16-P10-K14-苦土2-マンガン0.4-ホウソウ0.2)が、46年度か

液肥 25cc.)か燐硝安加里 5kgを施用(初期の生育をよくし、とくに乾燥時に効果が大きい。)

ニ. 間 引…第1回(双葉の開いたとき)、第2回(本葉2~3枚)、第3回(本葉6~7枚のとき)

施肥量(10a当り)

① 元 肥

苦土石灰 苦土・FTE入り燐硝安加里604  
(クド マンガン ホウソウ)  
(16-10-14-2-0.4-0.2)

80~150kg

60~80kg

② 追 肥

第1回 硝加安 NK 808 20kg 本葉 2~3枚  
第2回 “ “ “ 30kg 本葉 6~7枚

ら上市され、生産農家の期待にこたえているという訳である。

“話はまたあとですることにして、これから里浦町農協の宮北さんを訪ね、ついでに現地を見に行こうか？”という吉永さんの案内で、われわれはここからほど近い里浦町農協に参事の宮北正治さんをお訪ねした。

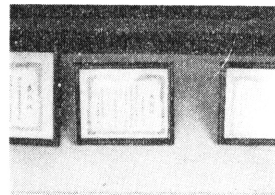
面倒な米づくりは

45年に、さっぱりすててしまおう

昭和23年創立というにしては、木造のためか、或は24年間の風雪がそうさせたのか知らないが、いかにも農協らしい古風な建物が見える。鳴門市管内でも大津農協と並んで、だいこんの柱軸をなす里浦町の農業の本拠“里浦町農業協同組合”で、宮北さんはわれわれの来訪を待っておられた。

“当組合は昭和23年の創立、組合員150名、その全員が、早掘りかんしょと遅出しだいこんを主とするそ菜生産農家です。作付面積は150haやから、平均して1人

賞状の数々(里浦農協で)



当り1haという訳やなあ。そう、もちろん米も作りました、44年まではなあ。けど、休耕割当てじゃ、なんやかんやうるそうてならんのですわ。事実、かんしょと

だいこんへの転換も進んできたことでもあり、“ここまで来れば、うるさい米など放っといたれーという訳でなあ、総会にかけた結果45年から米はすっかりやめてしまいましたわ…。現地見て戴けばようお判りになると思ひ



米は45年からすててしまおうた。(里浦農協の宮北さん)

第3回	燐硝安加里 604	40kg	本葉	10~12枚
第4回	“	“	30kg	肥 大 期
(越冬用)	“	“	20kg	1~2月頃

注意 1. 早播きの元肥はやや控え、おそ播きなど増施する。

2. 追肥は遅れず、肥切れさせぬこと。

3. 追肥はチッソの単用をさげ、NK化成などチッソ、カリを併用する。

4. 3~4月出しの越冬だいこんは、1~2月頃に燐硝安加里 604 を20kg程度追肥する。

5. 微量要素の欠乏しやすい畑では、追肥毎に、サンピ3号などの微量要素剤を併用するとよい。

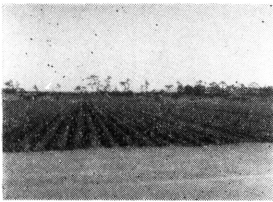
その他防除対策など(略)

ますが、現在米はちいっとも作ってはおりません。”

見切りがいゝというのか、自信というのか、それにしても美事に割り切った態度であり、方針である。その代り、“ここでは、かんしょとだいこんに対する皆の気構えがちがいますのや、米を手放したからは後に引けん、イヤ引けんではのうて、あとには引かんというのですわ…”ということになる。

こういう土地柄だけに、農業生産だけで地力をつけ、農協の貯蓄目標もその都度悠々と目標を突破しているこ

### 一面のだいこん畑



ころは全部これまで水田だったところで、さっき宮北さんが云われたように、このあたりの水田は45年を境にして、全部そ菜に転換して、米は全然作っておりません。そして、これが客土した砂です…”

と、圃場へ下りた吉永さんは、畑の砂をすくって見せる。圃場の砂はしっかりと水気を含んでいた。傍から“やはり地下水位が高いでなあ…”と吉永さん。

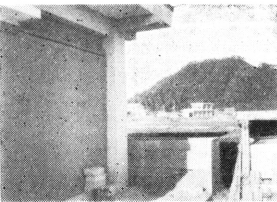
### 立派な家屋、充実した施設

#### まるで涎(よだれ)が出そうだ

“あの辺も、この辺も水田だったとこです。”と吉永さんが指さすあたりに、だいこんの緑が真冬とは思えぬ暖かい陽ざしに輝いている。そしてわれわれは“そこを…”と吉永さんの指示に従って自動車を進めると、やがて1つの聚落に衝き当たった。聚落と云っても耕

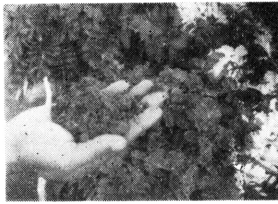
### 貯蔵庫を備えたある農家

(右後方にも農家が見える)



地の二階家が多いこと、そしてこれらの家屋には相当大型のかんしょの貯蔵庫が、洗滌場に向いて、ちょうど金庫のように顔を覗(の)ぞかせて、いるのである。

### こんな砂ですよ



とは、欄間にかかっている何枚かの感謝状が物語っている。

里浦町農協を出てから、今度は農協の裏手に広がるだいこん畑(写真参照)に出た。

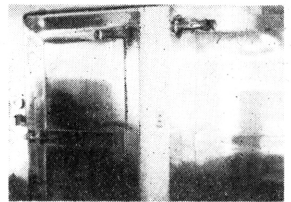
“いまご覧になっている

冬とは云え、暖かい南国の陽光をあびたその家々の、なんという暖かそうなただずまいであろう。それらの家々は、もの云わずして生活の豊かさを物語っている。

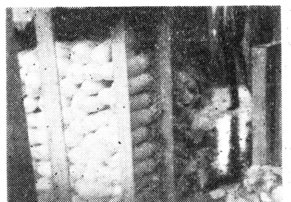
1戸当り家屋建設費は最低300万円から600万円見当とみられ、それらのうち約150戸の生産農家が、かんしょの貯蔵設備をもっていと云われている。写真に見る貯蔵庫の扉は1枚5万円ぐらいいだということだ。大都市周辺のせまい居宅でアップアップやっている、われわれ都会人からみると、涎(よだれ)が出てきそうになるのである。(イヤ本当の話。)

早掘かんしょのいわば余剰労力で作れることがここ鳴門大根の強みであり、42年28円、43年15円、44年39円、45年26円(ことしは29円の予想)というkg当り収益がまず安定していることが、だいこん生産の大きな支えでもあるが、この頃は岡山の蒜山(ひるぜん)、三浦その他の有力産地が鳴門の牙城に迫ろうとしているので、(早掘りかんしょの貯蔵設備もその対応策の1つでもあろうが)、県内対策を怠らぬのはもちろん、前記の競合産地対策のほか、最近だいこんのような根菜類の市場の安定性に刺戟されて後進生産県が漸増して来るので、これらの問題もおそろかにはできないのだと吉永さんは強調されていた。

### 洗滌場 (貯蔵庫の扉が見える)



### 洗って積上げただいこん



### あとがき 特集号の編集でごたごたやっている

間に、もう2月になってしまいました。時間の経つのは本当に早いものだと思います。

最近の暖気のためか、拙宅の梅もだいたい蕾がふくらんできた。このふんどと、2週間ぐらい花は早いのではないかとと思っています。梅がすめば、あとは百花りようらん-春はいっぺんにやって来るでしょう。

諸者各位にお願い…住所の標記変更や、お住いが変わった節は、ご面倒ですがお知らせ下さい。

1月号所載の甲斐秀昭先生の肩書は「九州大学農学部」と訂正いたします。この点ご諒承下さい。

(K生)